

特別企画 本部長・副本部長大いに語る 血液事業“ホップ！ステップ！ジャンプ！”

総会長 入田和男の『ここが知りたい！！』

トップスリーが血液事業を語る。本音で語る。
少子高齢やiPS、さらに「ワクチン・血液製剤産業タスクフォース 顧問からの提言」・・・血液事業を取り巻く世界が大きな変革を迎えるとき、血液事業の進むべき道とは？改善活動、そして事業運営の構造改革の先にある未来とは？
特に若手職員へ“いま”伝えたいメッセージを LIVEでお届けします。



中西 英夫

血液事業本部 総括経営会議委員

私事ですが、血液センター入社以来、血液事業のやりがいを感じつつ30年が過ぎましたが、心の片隅で、いつかは来ると思っていた血液事業の曲がり角。日本を代表する企業のT社でさえ来るはずがなかった曲がり角。今考えることは、縮小傾向にあっても事業の健全経営ができるか、次の世代の職員に将来のあるべき姿を示せるか、経営陣の正念場だということです。



日野 学

血液事業本部 経営会議委員

採血から検査・製剤を経て供給に至るまでの業務については、関連法規則を遵守しなければならない中で、様々な角度から改善活動が進められています。一方、医療の技術革新をはじめとした社会をめぐる環境が大きく変わろうとしている中、今までに蓄積された知識や技術などの財産を基礎に新たな事業にチャレンジをしていきます。



高橋 孝喜

血液事業本部長

ブロック運営体制を活用し、中長期的な戦略に基づく、組織改革、業務量の整理、適正な人員配置、人材育成・インフラ整備の推進などを実施していきます。
さらに、献血者や医療関係者に評価され、職員が働きやすい持続可能な組織を目指していきます。転換期にある血液事業ですが、明るい改革を進めましょう。

－ 思いを繋ぐ －

田所前本部長が導入したカイゼン活動。

「広域事業体制を生かし切るために、変化に対応できる自発的な「カイゼン」を風土化し、ゆるぎない血液事業本体の基盤を上げること、更には事業総体の社会的価値を高めていくこと」。

(田所本部長の退任のご挨拶より抜粋)

岐路に立っている。

「カイゼン」。

ひとりひとりが大なり小なり「気づき 考え 実行する」ことができれば、変化を楽しむことができれば、きっと、血液事業にはいきいきとした生命力溢れる未来が待っている。

命を繋ぐという仕事がキラキラと輝きを放つために。

がんばろう！カイゼン。